



# お酒を飲むと どうなるの？



## 飲酒運転を体験！

### 「酒酔い体験イベント」が開催されました

飲酒運転が原因の悲惨な事故が相次いでいますが、それでもなお、飲酒運転が後を絶ちません。その背景には、飲酒が運転に及ぼす影響への理解が不足していることが考えられます。

そこで、飲酒運転がどれだけ危険かを体験してもらうため、9月17日、春日部自動車教習所において、たいへん珍しい「酒酔い体験イベント」が開催されました。当日は、20～50代の男女9人が参加。約1時間半にわたってビールや酎ハイを好きなだけ飲んで体験運転を開始しました。飲酒前に一度走ったコースでしたが、大半の参加者がスピードを出しすぎたりS字コースでは脱輪したりするなど、安全な運転ができなくなっていました。



飲酒してから再度コースへ

### 主催した杉戸署に聞いてみました イベント開催の経緯は？

杉戸地区は恥ずかしながら飲酒運転が多いんです。

そこで、飲酒運転の実体験をして危険性を肌で感じてもらいたいと考えました。

#### 飲酒運転

疑似体験用のメガネもありませんが、視界や視力の低下は体験できても思考能力も低下する

力の低下は体験できません。

参加者の皆さんには、飲酒運転の危険性を家族や地域の皆さんに話していただき、地域全体で飲酒運転撲滅に向けて取り組んでいただければと思います。

#### 今回のイベントで得られたものは？

飲酒の前後でいろいろな検査を行いました。特に動体視力の低下はひどいものがありました。しかも、そのことについて本人の自覚がないということもわかり、飲酒運転の恐ろしさを再確認することができました。



杉戸警察署交通課交通指導係長 高橋英治さん

# 飲酒運転体験者に聞いてみました 体験した感想は？



株式会社 西濃運輸 代表取締役社長  
石井良幸さん

た。こんな体験は実際に飲酒してみないとわからないですね。  
わたしは、会社で全従業員の家族あてに飲酒運転防止を呼びかける手紙を出しています。飲酒運転（事故を含め）は家族も被害者も会社もみんな不幸にしています。飲酒運転防止は会社の危機管理対策の一環なんです。

わたしは日本酒3合と350mlの缶ビール5本、缶酎ハイ1本を飲み、アルコール検知数値は0.35mgと完全な酒気帯びの状態です、今回の体験イベントに臨みました。それでも絶対に運転できる自信はあったんですよ。しかし、実際には、飲酒前には簡単に走れたコースでも、飲酒後にはうまく走れずに脱輪してしまいました。  
しかも、飲酒前にはできていた運転前のミラー合わせや安全確認も、飲酒後にはすっかり忘れてたまま走り出してしまいました



飲酒運転体験の様子

# 飲酒前と飲酒後では どのような変化がありましたか？



株式会社 春日部自動車教習所 管理者  
渋谷幸雄さん

して法令が厳しくなっているわけです。「罰則があるからやらない」というのではなく、「危険だからやらない」というように考えていただきたいですね。

参加者のみなさんは、飲酒後は五感が鈍くなっているようでした。具体的には、カーブの手前でブレーキの踏み込みがあまりなくなる。徐行すべきところできていない。踏切の手前で一時停止すべきところを踏切に入ってしまったからブレーキを踏む。といったことが見られました。しかも本人には鈍くなっているという自覚がないようでした。  
また、個人差はありますが、動体視力が飲酒後には7分の1に低下した人もいます。これだけ危険だからこそ飲酒運転に

飲酒前後の視力変化

